

男子駅伝チームを優勝に導いた 北村 亮祐 監督にインタビュー



選手選考では、毎年課題となる1区と、長い区間の5区で安定した走りができる高校生を重視しました。そこで年間を通じて失敗がなかった埼玉栄高校の2人を最初に選び、実力のある社会人が引き離す展開を描いたのです。しかし結果は中高生が区間賞の走りでトップを快走し、社会人をカバーしてくれました(笑)。埼玉の強さは、郷土愛をもった社会人がチームを引っ張ってくれること、中・高・大・社会人の指導者が「一緒に埼玉を強くしよう」とまとまっていること。駅伝は、誰か一人でもコンディションが悪いと勝てないスポーツです。今回全員がベストな状態で臨み、それを支えた多くの指導者がいたことに感謝したいと思います。



選手たちに胸上げられる北村監督
写真提供:中国新聞社

西村 暢二 会長 選手・指導者が一致団結したことが 優勝につながった



ここ数年、あと一歩のところまで悔しい思いをしてきました。その雪辱を果たすために、選手・指導者が一致団結したことが優勝につながったのだと思います。服部・設楽の経験と、中高生の若さが見事に合致した素晴らしいレースでした。埼玉のチームワークがあれば、「連覇」も夢じゃない。来年以降も楽しみにしています。

松井 修 広島埼玉県人会会長 優勝が狙えるチームだと思っていた

大会前から「今年は優勝を狙える」と期待していましたが、走っていかないといけないのが駅伝。よく全員がコンディションを整えて、実力を発揮してくれました。高校生の頃から郷土の誇りを胸に走ってくれた服部選手がゴールしたときには、本当に涙がでました…。この優勝を機に、広島での埼玉のPRを強化していきたいと思っています。



写真提供:広島埼玉県人会

女子も大健闘! 7位入賞 皇后盃 第33回全国女子駅伝

澤口 功 監督
毎回入賞できる力をつけることが大切



女子駅伝チームメンバー表

山崎 里菜	パナソニック
沼田 未知	豊田自動織機
下門 美春	しまむら
阿部 沙香	しまむら
菊地 優子	白鷗大学
中川 文華	昌平高等学校
高沢 真歩	埼玉栄高等学校
岩井 絵里	埼玉栄高等学校
宮坂 朋実	本庄東高等学校
三ツ木 桃香	埼玉県立春日部東高等学校
高野 みなみ	さいたま市立指扇中学校
市岡 はるか	坂戸市立千代田中学校
猪股 真衣	坂戸市立桜中学校

「最低でも入賞」を目標に臨んだ大会。7位という結果は、素直に嬉しく思います。理想的なチーム編成ができたことに、県内の指導者の方々に感謝します。前半から上位の流れに乗る上手いレース運びができました。今後優勝を狙うためには、まずは毎回入賞できる力をつけることが大切。各カテゴリーで選手強化を続けていければと思います。

沼田 未知 選手(第4区区间賞) 世界大会に向けて、この結果で弾みをつけたい

練習量が足りず、調子はあまり良くありませんでした。走り終えて、目標タイムよりも良かったので満足していましたが、まだ後続に速い選手が残っていたので、まさか区間賞を取れるとは…。自分の前の走者が良い位置でタスキを運んでくれたおかげです。今年、来年と世界大会があるので、この結果で弾みをつけたいと思います。

一般財団法人 埼玉陸上競技協会 平成26年度「感謝の集い」

埼玉陸上競技協会恒例の「感謝の集い」が1月24日、来賓、選手団、協会関係者など約120名を集めて盛大に催された。今回は、同協会の名誉会長である藤間修一氏の「日本陸連功労賞」受賞祝賀会も兼ねての開催。冒頭挨拶に立った西村暢二会長は、日本陸連最高峰の栄誉を受けた藤間氏に祝言を述べるとともに、国民体育大会など、本年度、各大会で活躍した選手、指導者、関係者の労をねぎらい、協賛社への感謝の意を表した。



参加選手の声

北村 一真 選手(さいたま市立大原中学校)
全日本中学校陸上選手権大会/四種競技優勝

26年は最高の一年でした。四種競技の中では走り高跳びが苦手だったのですが、コーチとのマンツーマン練習が実を結び、良い結果を出すことができました。優勝は先生方や両親が応援してくれたおかげであることを忘れないようにしたい。今後は陸上競技で得た経験を活かして、何事にも全力投球しようと思っています。



江原 宇宙 選手(県立進修館高等学校)
第69回国民体育大会/少年A女子ハンマー投優勝

国体では、自分の投てきをするだけに集中しました。昨年は大会ごとに良かったり、悪かったりが交互に現れた年だったので、結果を考えずに平常心で望んだことが良い結果につながったのだと思います。春からは大学生。目標の日本選手権やインカレで結果を出せるよう、課題のターンに磨きをかけたいです。

埼玉陸上競技協会 後援会制度 埼玉アスレチックサポートプログラムのご案内

国民体育大会、天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会、皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝競走大会をはじめ、埼玉県選手団は、数多くの大会で好成績を取っており、国内トップクラスの選手が活躍しております。本県選手の活躍の背景には、1999年から取り組む「彩の国 競技者・指導者育成プログラム」による中長期的な育成・強化の実践が功を奏しております。埼玉陸上競技協会では、「強い埼玉」をよりサポートするために「埼玉アスレチックサポートプログラム」を発足しております。埼玉から一人でも多くの選手を世界に送り出せるよう、多くの埼玉県民の方々にご協力、ご支援をお願い申し上げます。

名 称	埼玉アスレチックサポートプログラム
年会費	個人:1口5,000円以上から 法人・団体:2口(1万円)以上から ^{※1}
会員期間	2015年4月1日~2016年3月31日(有効期限最長1年) ※期間途中からのご入会の場合も、期限は2016年3月31日となります。
特 典	<input type="checkbox"/> メンバー証の発行 <input type="checkbox"/> 本協会の年間行事予定の送付(年1回) <input type="checkbox"/> 本協会の会報発送(年3回) <input type="checkbox"/> 本協会の会報内での名前のご紹介 <input type="checkbox"/> 本協会主催の8大会 ^{※2} でのプログラム・ドリンクの提供(1本/人) <input type="checkbox"/> 本協会主催の6大会(①⑤を除く)場内電光掲示板での名前のご紹介 <input type="checkbox"/> 埼玉陸上競技協会「感謝の集い」へのご招待(2016年2月末に開催予定)

※1:法人・団体申込の特典は、申込口数分のご提供を予定しております。
※2:本協会主催及び共催等は、以下の8大会を予定しております。
①高等学校総合体育大会県大会 ②彩の国小学生陸上クラブ交流大会 ③埼玉陸上競技選手権大会
④全国小学生陸上競技交流大会県予選会 ⑤中学校総合体育大会県大会 ⑥中学生ジュニアオリンピック標準突破会 ⑦彩の国小学生陸上クラブ交流大会 ⑧埼玉チャレンジカップ

埼玉アスリートの明日を担う。



Stream

天皇盃 第20回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

優勝記念特別号



一般財団法人 埼玉陸上競技協会 Official Sponsors



一般財団法人 埼玉陸上競技協会
〒362-0034 埼玉県上尾市愛宕3-28-30

TEL: 048(771)4248
FAX: 048(772)4566
MAIL: saitamaff@yacht.ocn.ne.jp

http://sairiku.net/

発行/2015年3月



一般財団法人
埼玉陸上競技協会

スポーツ振興くじ助成事業

悲願の天皇盃獲得 「陸上・埼玉」の夢、結実

2015年1月18日、第20回全国都道府県対抗男子駅伝が広島県広島市の平和記念公園前発着の7区間48キロのコースで行われ、埼玉が2時間19分14秒で初優勝を果たした。2年連続で入賞を果たしながら頂点の座が遠かった埼玉。雪辱を期した2015年は、区間賞2人をはじめとする中高生の快走と社会人の安定感溢れる走りで大倒し、悲願の賜杯獲得を成し遂げた。



2区 (3.0km/8分39秒[区間賞]) Ryu Hashimoto (毛呂山町立川角中学校3年) 橋本 龍

勝負を楽しめた！
イメージ通りの走りです区間賞

前日に埼玉代表のユニフォームを受け取り「自分は県の代表なんだ。絶対に迷惑はかけられないぞ」と意識してしまっ。前の晩は寝付けなくて、斉藤としりとりをして過ごしたんです(笑)。迎えた本番では、描いた通りの展開でタスキが渡ってきたこともあり、落ち着いて走り出すことができました。トップに立つイメージをきっちりしていたのが良かったと思います。アップのときには重く感じていた体も、スタートしたらふっと軽くなった。先頭に追いついてからは、勝負を楽しむ余裕もありました。結果は区間賞を獲得できて、憧れの設楽選手にトップでタスキを渡すことができたのが嬉しかった！高校でも代表に選ばれるよう、一生懸命練習します。

3区 (8.5km/24分27秒) Yuta Shitara (Honda) 設楽 悠太

疲れた体を突き動かした、恩師への想い

中高生の実力は、自分たちの頃以上だと認めていました。彼らが頑張って、自分のところには先頭で来る予想はしていましたが、でも実はニューイヤー駅伝の疲れもあり、調子はあまり良くなかった。だから、橋本が本当にトップで来たときには「マジかよ！」って感じてました(笑)。でも、高校時代の恩師・北村監督を胴上げしたいという強い気持ちと、久々に代表に選ばれた責任感が自分を奮い立たせてくれました。トップで次に渡すことができず不甲斐ない気持ちもありますが、最低限の仕事はできたかな。Hondaでもチームメイトになった服部選手は、いつも刺激をもらう存在。今後も2人で引っ張って、Hondaも埼玉も、もっと強くしていきたいです。



4区 (5.0km/14分13秒[区間賞]) Naoki Koyama (県立松山高等学校3年) 小山 直城

大舞台を楽しむ余裕が生んだ区間賞

埼玉の2人が長い距離を引き受けてくれたので、自分は短い5km。距離が少し短いことで、案外リラックスして設楽選手を待っていました。内心1位で来るかなと思っていたのですが、実際は2位。でも競っていた相手が優勝候補の広島でなかったの、ちょっとホッとしました(笑)。僕は全国高校駅伝に出場できなかったの、こんなに大きな舞台は初めて。沿道の声援や白バイの先導など、テレビで見る光景のなかで走ることができ最高の気分でした。個人的には区間賞が取れて良かったのですが、それ以上にこのチームで勝てたことが嬉しいです。優勝した夜、中高生だけの祝賀パーティーでみんなと食べたバイキングの味は、一生忘れることができます。

5区 (8.5km/24分46秒) Ryo Kozasa (埼玉栄高等学校3年) 小笹 椋

レース前から確信していた「優勝」の2文字

2人の中学生は強い、自分たちも埼玉栄で結果を出している、いつもは手強いライバルの小山や大西が味方にいる、そして凄い社会人の先輩がいる…。これで優勝できないわけがないと中高生チームでは話してました。だから予想通り小山がトップでタスキを運んできてくれて、焦ることなく走り出すことができました。全国の舞台上で独走できたのは、本当に気持ちよかったです！次の走者の斉藤には「トップで来るから逃げ切る準備をしておけよ」と伝えていたのですが、その言葉通りに走ることができたことに満足しています。来年は大学生になりますが、またこの大会に出たいという気持ちはあります。強い社会人の先輩はいますが、堂々と挑戦したいですね。



6区 (3.0km/8分56秒) Ryunosuke Saito (小川町立東中学校3年) 斉藤 龍之介

もっと大きな自分になって、埼玉に戻りたい

こんなに後続と開いてタスキが来るとは…。だから中継車を前にして、一人で走ることによって戸惑ってしまって(笑)。中継車のスピードが時々上がることに気がつかず、「あれ、中継車に置いていかれてる！自分のペースが落ちているのかな」と勘違いしちゃったんです。それでちょっとスピードを上げました。結果、後半少しバテてしまい、タイム的には満足できない結果に…。でも「全部オレが抜いてやるから、楽しみながら走れ」とレース前にアドバイスしてくれた服部選手に、トップでつなげたのは最高でした。僕は県外の高校に進むのですが、大学・社会人でもっと大きくなって埼玉に戻ってこられるよう、一生懸命努力したいと思っています。

7区 (13.0km/37分59秒) Syota Hattori (Honda) 服部 翔大

連覇を狙う来年。代表の座はまだまだ渡さない！

自分としては後半追う展開を考えていて、追われることは想定していませんでした。体調もベストではなかったの、トップで来たことに「勘弁してくれ〜」って思いましたね(笑)。後ろから宮城の村山選手が来ているのは知っていましたが、かなり差はあったので平常心で走ることができました。ゴールテープを切った瞬間、高校からずっと出場していた思い入れあるレースにやっと勝てた感動でいっぱいでした。来年からは追われる立場になりますが、連覇を狙っていきたいですね。僕も悠太も、まだまだ社会人代表の座に居座るつもりです(笑)。いずれ(設楽)啓太も帰ってくるでしょうし、若い選手にはどんどん自分たちに挑戦してきてもらいたいですね。

【監督】北村 亮祐
【コーチ】大澤 陽祐、神山 洋一、生方 基之、湯川 英昭、青木 美智留、西又 亮行、深谷 直毅、片桐 智宏

